

# 私鉄車両めぐり

第10冊

鉄道ピクトリアル 1969年12月号・臨時増刊 通巻第232号

## 表紙「定山溪にて」

### グラフ

大井川鉄道 [1].....	3
"    [2].....	104
定山溪鉄道.....	4
弘南鉄道.....	6
越後交通栃尾線.....	8
北丹鉄道.....	103
別府鉄道.....	106
土佐電気鉄道鉄道線.....	108
北九州市営軌道線.....	110
私鉄車両めぐり第10分冊掲載私鉄分布図	

## 記事

①定山溪鉄道.....	小熊 米雄...11
②弘南鉄道.....	白土 貞夫...26
③越後交通栃尾線.....	
瀬古龍雄・川垣恭三・反町忠夫・吉田豊...36	
④大井川鉄道.....	高井 薫平...50
⑤北丹鉄道.....	京都大学鉄道研究会...64
⑥別府鉄道.....	藤井 信夫...72
⑦土佐電気鉄道鉄道線.....	東京大学鉄道研究会...80
⑧北九州市営軌道線.....	谷口 良忠...92
私鉄車両めぐり関連記事総覧.....	和久田康雄...96
車両の窓配置記号について.....	青木 栄一...102

## 「私鉄車両めぐり」〈最終分冊〉の発刊にあたって

本誌「私鉄車両めぐり」分冊も、1960年に第1分冊を発行して以来、本号でついに10冊を数えた。このような地方の小私鉄の車両（とくに車両発達史）の解明を内容として特集が10年間に亘って毎年発行できたことは、本誌が多くの研究歴の豊かな執筆者の協力を得られたたまたものであり、また更に多数の読者の支援があったためである。

鉄道趣味とは鉄道写真の撮影という意味ではないかと錯覚を起すくらい、鉄道写真が大きな分野を占めている現代に、非常に正確、かつ客観性・厳密性を兼ね備えた記事を内容とする本分冊がかくも息の長い活動を続けてきたことは、鉄道趣味の巾の広さを感じさせる。本誌がこの分冊シリーズで発表してきた私鉄の論文は決して単に微に入り細をうがっただけのものではなく、将来、私鉄を含めた日本の鉄道史をつくる上に、その資料として信頼のできる調査研究であるべき性格をもっている。このような多くの研究家の仕事を発表し、世に残すことができたことに対して、本誌は大きな誇りをいできてきた。

鉄道に関する調査研究が、単なる形態記述や番号変化の追跡のような自己満足のなものから、科学的な方法論をふまえた調査研究に変質してゆくのは一つの必然性というべきであろう。しかし、10冊に及ぶ分冊発行を通じてもなおなし得なかった多くの問題点が残されたことも

率直に認めなくてはならない。それはすでにかつて本誌においても指摘されたように、この種の執筆者層の薄いことであり、多くの若手（20才代）の執筆者を育てることのむずかしさであった。幸い京都大学鉄道研究会が通常号も含めて4回に亘って共同調査の結果を発表し、この第10分冊では新たに東京大学鉄道研究会の共同研究が実を結んだ。最近本誌通常号でも活躍するようになった現役の学生諸氏を含めて、この方々の今後の大成を期待するとともに、先輩諸氏の暖い御指導をお願いしたい。

本冊分はほぼ全部の現存地方私鉄の紹介を終った本号をもってひとまず打ち切り、今後の私鉄研究の成果は通常号の「私鉄車両めぐり」において適宜とりあげてゆきたいと考えている。また分冊最終号にあたって、編集責任者の一人である和久田康雄氏から私鉄紹介記事の文献目録をまとめていただいたことはまことに時を得たものである。今後この種の研究者のますます輩出することを期待し、本誌をその発表の場として利用されることを希望して「私鉄車両めぐり」分冊の終りの言葉としたい。

なお本号の内容検討は和久田康雄、青木栄一両氏にお願いした。記して謝意を表したい。

〔表紙〕「定山溪にて」

原口 誠一

モハ1201 キハ7002 定山溪 '69.7.13

キャノンベリックス 50mm 絞り16 1/125 トライX